



## 所信声明

# ヒト免疫不全ウイルスと後天性免疫不全症候群（HIV と AIDS）

Human Immunodeficiency Virus and Acquired Immunodeficiency Syndrome (HIV and AIDS)

## 背景

ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が引き起こす症状は、抗レトロウイルス薬による抑制が可能であるが、治癒は望めない。代替療法や生活習慣・生活環境の改善は、治療成果の向上に役立つ。未治療の HIV は 5 年から 15 年で後天性免疫不全症候群（AIDS）へと進行する。抗レトロウイルス薬の服用基準を守って継続することで、HIV の進行をほぼ抑えることができ、平均余命を大幅に伸ばすことができる。低所得国であっても、HIV 感染者は何年間も健康かつ生産的に生きることができる。一部の国では、HIV 陽性は慢性症状として受け入れられている。

しかしながら、AIDS は今も全世界で死亡と疾病の大きな原因である。感染者との無防備な性交渉（膣性交または肛門性交）または口腔性交、汚染血液の輸血、汚染された針・注射器その他の鋭器の共有によって感染する。また、妊娠・出産・授乳の際に母子間でも感染する可能性がある。

## 見解

ICM は以下の立場をとる。

- すべての女性は HIV 感染と AIDS を回避する十分な情報を得て、自身の HIV 感染状態を知り、HIV 母子感染の予防法を学ぶ権利を有することを確約する。
- すべての HIV 陽性妊婦は、自身とその新生児のために、抗レトロウイルス薬を利用する権利を有することを強調する。
- 助産師は、HIV の蔓延を防ぎ、入手が可能なケアと治療を提供できる実践者であり、また、専門職者として地域社会で活躍できる教育者でもある。
- 保護具（personal protection equipment : PPE）（ラテックス手袋など）は、入手可能な値段で助産師が利用できなければならないと考える。

## 会員協会への指針

会員協会は、HIV および AIDS についての情報源を紹介し、会員内で情報を収集・普及することが求められる。会員協会は地域の省庁および政府と協力して、国の政策及びガイドラインが HIV の拡大防止の手段として遵守されるよう協働しながら、通常の助産手順、HIV 陽性である助産師のためのガイドライン、授乳の最適な方法などの付随事物を網羅するガイドライン文書を策定す

ることを求める。

助産師には、以下を行うことにより HIV および AIDS の分野における責任を受け入れることを求める。

A. 助産師個人として：

- 針刺し損傷の防止と使用済み注射器類の正しい廃棄
- HIV と AIDS の分野における最新知識の維持（母乳育児と授乳に関する進展を含む）
- 体液を扱う際や、感染または感染疑いの血液または血液のついた器具を扱う際の普遍的予防措置の遵守（特に直接の接触前後の入念な手洗い、手袋の着用、出産時にはゴーグル・眼鏡および靴の着用と開放創の被覆、使い捨てでない機器が汚染された際の洗浄用に承認された液剤の使用）
- 汚染された器具・リネンの取り扱い、洗濯または廃棄の正しい手続き

B. 地域社会と協力して：

- 地域社会内の全ての年齢層を対象とするが、特に学校での教育を重視した HIV の拡散経路についての教育
- 異性愛・同性愛両方の性的行為に対する責任あるアプローチの奨励
- 女性器切除が行われている国々ではその実施の阻止
- 孤児の福祉に関して家族との協力
- 常時、女性の秘密の保持と汚名の回避

C. 出産年齢の女性について：

- 女性が差別のないケアを受けることができ、そのケアにより女性のニーズがすべて満たされること
- 家族計画の情報の提供
- HIV カウンセリングまたは検査の提供、地域のプロトコルに沿った検査機関への紹介
- 理解しやすい形での HIV および AIDS に関する情報提供（母乳と授乳に関する情報を含む）
- 分娩時の血液感染から女性を守るための滅菌器具の入手
- 母体から胎児への感染を最小限するための最適な出産方法について合意する際の、医療スタッフと妊婦との協力
- 可能な場合、早期破水、胎児頭皮用電極の使用、胎児採血、会陰切開術の回避
- 母子感染を予防するための妊婦との協力による新生児への最適な授乳方法の判断と、妊婦が選択した授乳方法を実施する支援
- 女性とそのパートナーに対する慎重なカウンセリングの提供

D. 以下を確保するため関連の地域の省庁及び政府と協力して：

- 具体的なガイドラインおよびプロトコルの策定と実施（出産前検査、普遍的予防措置、普通分娩の実施、助産師の専門的・法的責任を含む）

- 助産師のための適切な研修とカウンセリングの提供と利用可能性
- 記録とモニタリングのプログラムの調整と実施

\*出産には、妊娠、分娩、産後期を含む。

### 関連 ICM 文書

ICM. 2014 所信声明 完全母乳育児と HIV 感染

### その他の関連文書

IATT. 2011. A Global Action Framework for Elimination of Mother-to-Child-Transmission of HIV.

IATT. 2011. Vital Voices: Recommendations from consultations with people living with HIV on the IATT's Strategic Framework for PMTCT Components 1 and 2. ICW, GNP+.

[http://www.gnpplus.net/images/stories/Empowerment/consultations/ICW\\_GNP\\_Recommendations\\_PMTCT\\_Framework\\_Final.pdf](http://www.gnpplus.net/images/stories/Empowerment/consultations/ICW_GNP_Recommendations_PMTCT_Framework_Final.pdf)

UNFPA. 2011. Preventing HIV and unintended pregnancies. Strategic Framework 2011 – 2015.

WHO. 2013. Global update on HIV treatment 2013: results, impact and opportunities: WHO report in partnership with UNICEF and UNAIDS.

WHO. 2013. Consolidated guidelines on the use of antiretroviral drugs for treating and preventing HIV infection: recommendations for a public health approach. Geneva, World Health Organization, 2013.

WHO. 2013. HIV/AIDS Fact sheet N°360 Updated October 2013

Yiannoutsos CT et al. Estimated mortality of adult HIV-infected patients starting treatment with combination antiretroviral therapy. Sexually Transmitted Infections, 2012, 88:i33–i43.

**2008 年、グラスゴーでの国際評議会にて採択**

2014 年、プラハ国際評議会にて見直し・採択

次回の見直し予定：2020 年

2016 年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 訳

ICM 発行文書の原文については、ICM が著作権を有します。

日本の ICM 加盟団体である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会は、ICM の許諾を得て日本語に翻訳しました。

日本語訳の著作権については、原文作成者である ICM と日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会に帰属します。

原文の転載引用については、ICM に連絡し使用許諾を得てください。

日本語訳の転載引用については、日本助産師会 <http://www.midwife.or.jp/> に連絡し使用許諾を得てください。